

ふれあい情報

2015年10月21日(水) 第218号

■発行 日本退職者連合

■発行人 菅井義夫

■連絡先 〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台3-2-11

TEL 03-5295-0507 FAX03-5295-0541

<e-mail>tais yokusharengo@sv.rengo-net.or.jp

<ホームページ>http://tr.jtuc-rengo.jp

連合第14回定期大会(10月6日、7日)開かれる

退職者連合2年間の活動を報告

ITUC代表、大会あいさつで核兵器廃絶の取り組み表明

連合は、10月6日(火)～7日(水)の2日間の日程で東京国際フォーラムを会場に第14回定期大会を開きました。大会は2年に1度開催され、連合役員をはじめ、代議員487人、地方特別代議員47人、女性特別代議員51人、傍聴など約2,000人が参加しました。またアメリカ労働総同盟・産別会議(AFL-CIO)などアメリカ、アジア、ヨーロッパのナショナルセンター30組織38人が海外来賓として紹介されました。

新会長に神津氏、新事務局長に逢見氏選出

午前9時から開かれた大会では、退職者連合の阿部保吉会長が来賓として紹介され、大会傍聴として菅井義夫事務局長、野田副事務局長、林副事務局長、産別・関連退連の代表などが参加しました。また連合活動報告の中に退職者連合2年間の報告も盛り込まれました。

主催者あいさつでは、会長、副会長、事務局長を歴任した古賀伸明会長が13年間にわたる連合役員としての活動を振り返るとともに「連合のこれからの課題は大きい」と述べました。なお大会2日目には、役員改選が行われ新会長に神津里季生氏(基幹労連)、新事務局長に逢見直人氏(UAゼンセン)がそれぞれ選出され、神津・逢見体制がスタートしました。



▲大会で主催者あいさつする古賀会長。右は、登壇した退職者連合の阿部会長。

ITUC代表のヴィーネン書記長代行が100万署名を評価

海外来賓あいさつの中で重要だったのは、連合が加盟している国際労働組合総連合(ITUC)の代表として登壇したヤープ・ヴィーネン書記長代行のあいさつです。ヴィーネン書記長代行は、連合が今年度取り組んだ核兵器廃絶100万署名運動に触れ、これをITUCとして高く評価するとともに今後ITUCとして核兵器廃絶運動に取り組んでいくことを表明しました。国際労働運動に強い影響力を持ってきたITUCの前身である国際自由労連(ICFTU)は長年、主要加盟組織の



一つであるアメリカのAFL-CIOが「広島・長崎への原爆投下は戦争を早く終わらせるためには必要だった」というスタンスをとる中で、核兵器廃絶を主張してこなかった歴史があります。連合が2005年からスタートさせた核兵器廃絶100万署名と国連NPT(核拡散防止条約)再検討会議でのニューヨーク行動などを通じて、粘り強くICFTU

と、その後の ITUC への働きかけを続けた結果が、ヴィ書記長代行の発言になったといえます。

国際労働運動が核兵器廃絶への取り組みに動きだしたことは、わが国の

今後の核兵器廃絶の運動に大きな意味を持つものです。退職者連合に寄せられた 57 万人署名もこうした取り組みにつながっています。

核兵器廃絶運動の前進に向けて連

合がこれから国際労働運動にどのようなイニシアティブを発揮していくかが大いに期待されます。退職者連合は連合としっかり連携していきます。

連合事務局との連携強化へ

退職者連合事務局、連合事務局全体会議に初参加

退職者連合は、様々な運動の推進にあたって連合事務局との日常的な連携をはかっています。この現退一致の関係をさらに強めるため、連合が毎月1回開催している事務局全体会議に参加することになりました。10月19日(月)午後1時から開かれた事務局全体会議には、菅井義夫事務局長、野田那智子副事務局長、林道寛副事務局長、高柳京子部長の4名が退職者連合として初めて参加しました。

連合事務局の全員参加で毎月開催

連合の事務局全体会議は、専従役員・プロパー・派遣者など連合事務局の全員が参加して定例で開催されており、その時々的情勢や重要な運動課題、政治課題などについて会長や事務局長がその考

えを明らかにしたり、事務局運営に関わることなどを全体で確認したりしています。退職者連合では、この事務局全体会議への退職者連合事務局の参加を申し入れていましたが、このほど連合から了解の返事をいただいたものです。今後、連合事務局全体会議には、毎回参加することになります。

この日の事務局全体会議は、10月6日～7日の連合第14回定期大会後、2回目の開催でしたが、前回は顔合わせとして30分程度で終了したため、実質的には第1回目となります。冒頭、逢見直人新事務局長があいさつ。2016年春季生活闘争(春闘)にふれ「マスコミなどがすぐ数字を聞きながら、数字の議論だけではダメだ。非正規を含めてすべての労働



▲全体会議冒頭であいさつする逢見事務局長。

者の生活の底上げに向けて闘っていくことを連合全体で共有していきたい」と決意を述べました。また秋の臨時国会について「政府は説明責任があり、総理は所信表明すべきだ」と開催を求めました。事務局運営について逢見事務局長は「皆さんとしっかりコミュニケーションをはかっていきたい」と述べました。



初めて連合事務局全体会議に参加した退職者連合事務局(最後尾の後姿、右から菅井事務局長、野田副事務局長。十月一九日、連合本部)